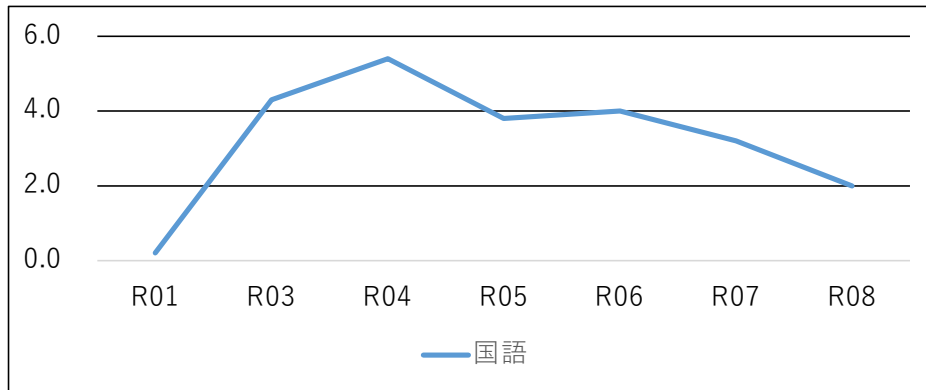


令和8年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）①

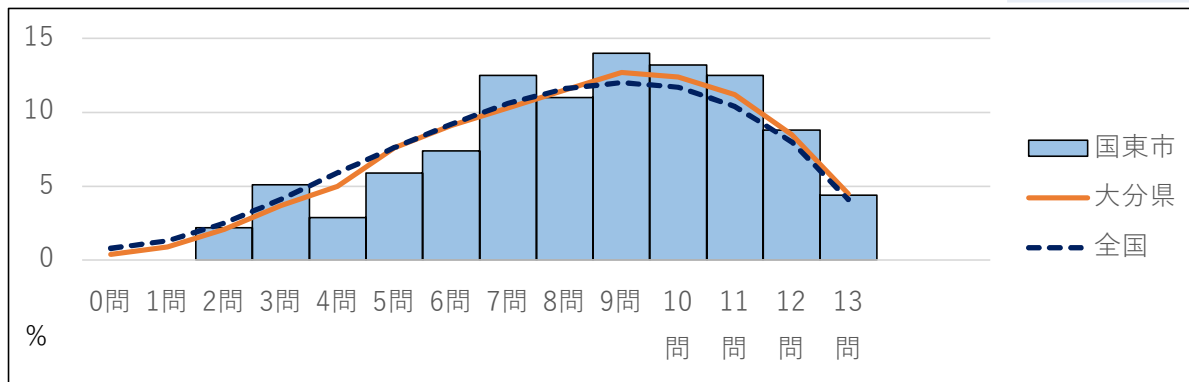
■ 結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○ 全国平均を2.0上回る。

4 正答数度数分布



2 領域別の結果

学習指導要領の領域	国東市	大分県	全国
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.9	69.9	66.8
(2) 情報の扱い方に関する事項	53.7	53.6	52.3
(3) 我が国の言語文化に関する事項	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	68.9	66.9	65.8
B 書くこと	44.1	45.4	45.7
C 読むこと	75.0	68.5	65.9

▲ 「書くこと」は全国・県平均を下回る。

3 観点別の結果

観点	国東市	大分県	全国
知識・技能	65.8	64.5	62.0
思考・判断・表現	63.6	61.2	60.1

○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国・県平均を上回る。

○ 低学力層の児童の割合（正答率30%以下）が全国平均より少ない。
○ 正答数が全国平均以上（8問以上）の児童の割合は全国値を上回る。

令和8年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）②

■ 課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問2 設問一【平均正答率 国東市50.7% 大分県54.9% 全国57.9%】
筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうか見る問題。

花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する

1. 調査の目的や手順、調査結果も順序立てて書いている。
2. 結論を最初に述べ、それを支える事例を複数取り上げて書いている。
3. 疑問と調べて分かったこと、次の疑問をくり返して書いている。
4. 複数の事例の長所と短所を比べて書いている。

● 学習指導要領における内容
〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等B書くことイ筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

● 解答類型と反応率

解答類型	反応率（%）	正答
1と回答しているもの	30.9	
2と回答しているもの	8.1	
3と回答しているもの	50.7	◎
4と回答しているもの	10.3	

調査結果から見える児童の実態

- 本設問の正答率は50.7%であった。今回の結果から、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題があると考えられる。
- 解答類型1は、花山さんが、調査の目的や手順、調査結果を順序立てて書いていると捉えており、疑問と調べて分かったこと、次の疑問を繰り返して書いていると捉えることができなかったと考えられる。この中には、「始め」「中」「終わり」の文章全体の構成には着目することはできていたが、花山さんが「中」のつながりや配列をどのように意識して書いたかを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。また、【花山さんの文章の一部】のつながりや配列に着目せず、調査を報告する文章の典型例として選択した児童がいたと考えられる。

指導の改善

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える

「筋道の通った文章」とは

相手に分かりやすく伝わるよう、伝えたいこと・知らせたいことを明確にし、首尾一貫した展開となるよう論の進め方に注意して組み立てた文章。
文章全体の構成の工夫に加え、「考えと理由・事例」「原因と結果」「疑問と解決」などの文章全体のつながりや配列を意識して整えることが重要となる。

具体的指導の手立て（授業づくりのアイディア）

- 文章全体の筋道を整えるための「つながり」や「配列」の種類と、それぞれの効果をあらかじめ整理しておく。
 - 書き手（児童）が「読み手にどのように読み進めてほしいか」という目的に応じた表現方法を考えられるよう指導する。
- ①既習の「説明的な文章」の整理・想起
これまで学習してきた説明的な文章を振り返り、どんな論の進め方があり、どのような効果があったかを具体的に整理する場面を設定する。
- ②展開・論の進め方が異なる複数の文章の「読み比べ」
論の進め方の異なる例文を比較・分析させることで、文章展開ごとの効果の違いを明確に実感させる。

論の進め方のパターン	特徴・ねらいとする効果
① 考えと理由や事例	最初に結論・考えを提示し、それを支える理由や事例を並列して提示することで、主張を明確に伝える。
② 疑問と解決	疑問を投げかけ、それを探究・解決していくプロセスを順に見せることで、読み手を引き込む。
③ 原因と結果	物事の背景と出来事を結び付けて説明し、事象の因果関係を論理的かつ説得力をもって伝える。
④身近な話題と 目新しい話題	関心を持ちやすい身近な話題から徐々に専門的・発展的な内容へ展開し、理解を深めさせる。

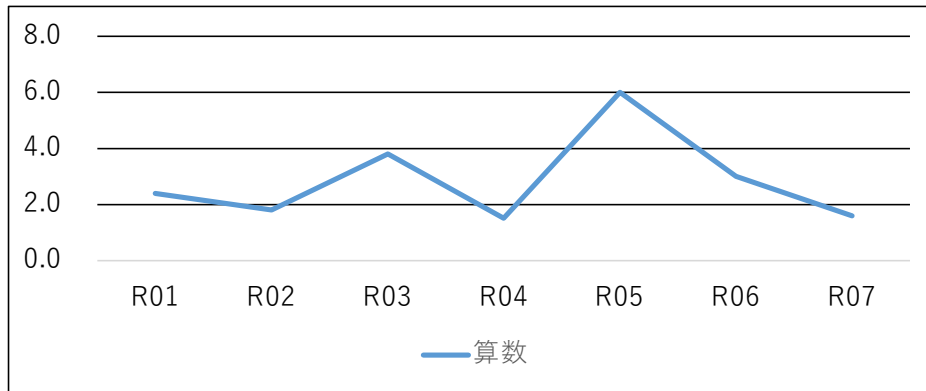
参考資料・リンク

「令和3年度【小学校】授業アイディア例」pp.5-6（国立教育政策研究所）
URL: <https://www.nier.go.jp/jugyourei/r03/data/21p.pdf#page=6>

令和8年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）①

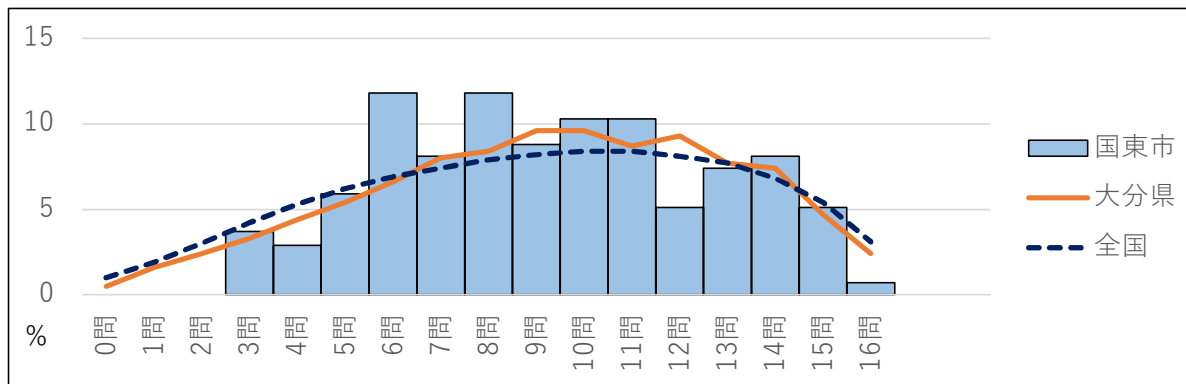
■ 結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○ 全国平均を1.6上回る。

4 正答数度数分布



2 領域別の結果

学習指導要領の領域	国東市	大分県	全国
A 数と計算	61.2	62.3	61.1
B 図形	58.6	56.5	55.3
C 測定	80.1	77.9	78.1
C 変化と関係	35.5	39.1	41.1
D データの活用	52.9	50.6	48.6

▲ 「変化と関係」の領域は全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観点	国東市	大分県	全国
知識・技能	61.8	61.1	60.1
思考・判断・表現	46.9	48.3	45.4

○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国平均を上回る。

○ 低学力層の児童の割合（正答率30%以下）が全国・県平均より少ない。
 ▲ 正答数が全国平均以上（9問以上）の児童の割合は全国値を下回る。

課題が見られた問題と指導の改善

大問2(3)【平均正答率 国東市29.4% 大分県37.2% 全国36.1%】
単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるかについて判断できるかどうかをみる問題

問題

(3) AとBの2つのペンギンの広場があります。
下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。



広場にいるペンギンの数と広場の面積		
	ペンギンの数 (羽)	面積 (㎡)
A	10	20
B	12	30

こたねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【こたねさんの計算】
A $10 \div 20 = 0.5$
B $12 \div 30 = 0.4$

【こたねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようによめます。
下の ア と イ、 ウ と エ の中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【こたねさんの計算】は、
ア 1㎡あたりのペンギンの数を求めています。
イ 1羽あたりの面積を求めています。
ウ 数が大きいAの広場のほうがこんでいることがわかります。
エ 数が小さいBの広場のほうがこんでいることがわかります。

正答

ア・ウ(29.4%)

誤答例

ア・エ(12.5%)
⇒示された式から商が1㎡あたりのペンギンの数であることを捉えることはできているが、商が小さいBの広場の方が混んでいると誤って判断していると考えられる

イ・ウ(28.7%)
⇒示された式から商が1羽あたりの面積であると誤って捉え、1羽あたりの面積を比べたときに商が大きいAの広場の方が混んでいると誤って判断していると考えられる。

イ・エ(27.2%)
⇒示された式から商が1羽あたりの面積であると誤って捉えたため、商が小さいBの方が混んでいると判断していると考えられる。

指導の改善

【児童のつまづきを確認】

●商が「1㎡あたりの羽数」を表すか「1羽あたりの面積」を表すかを正しく理解できておらず、商の数値が大きいほど混んでいる（あるいは小さいほど混んでいる）と誤って捉えている。

【学習指導のポイント】

二つの数量関係に着目し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにすることが重要である。

○学習指導に当たっては、たとえばウサギの数や広場の広さが異なるいくつかの場面において、ウサギがいる広場の混み具合を比べる活動が考えられる。

広場にいるウサギの数と広場の面積		
	ウサギの数 (匹)	面積 (㎡)
A	8	4
B	8	6
C	9	6

①まず一つの数量（ウサギまたは広さ）だけでは比べることができないことから、どちらか一方の量をそろえる必要があることに気付くことができるようにすることが大切である。

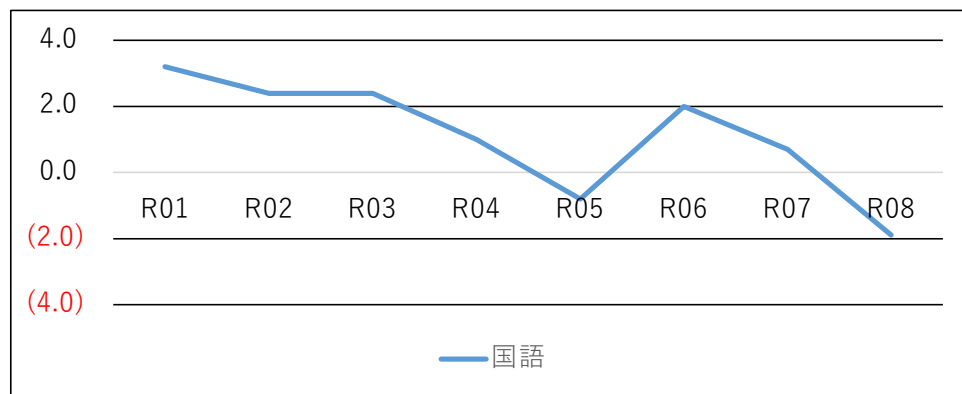
※混み具合が変わらないようにするためには、面積を2倍・3倍（または÷2・÷3）しなければならないことを、図や数直線を用いて理解できるようにする。1あたりを求めるときも、図や数直線を用いて説明できるようにすることが大切である。

②次に、単位量当たりの大きさを求める式の意味について理解できるようにする。さらには、答えの数値が表しているものが何かをはっきりさせ、その大きさから混み具合などを判断できるようにする。

令和8年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）①

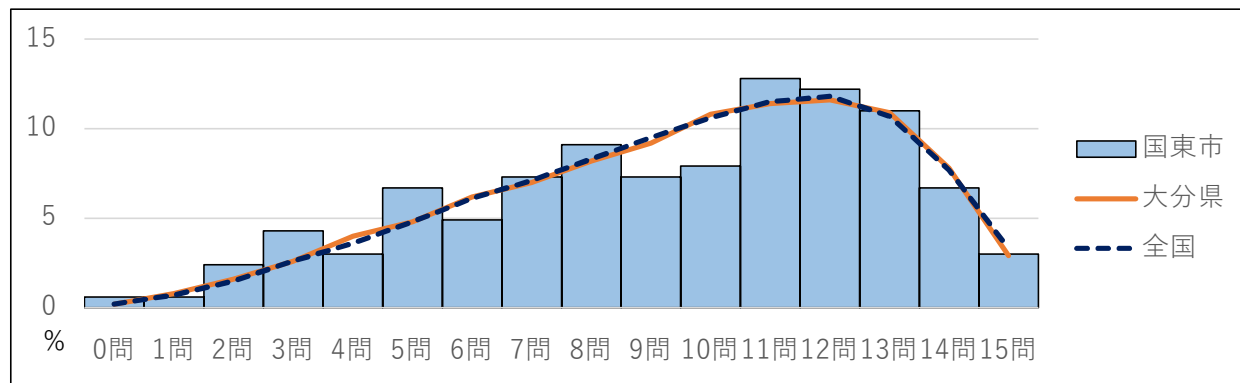
■ 結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



▲ 全国平均を1.9下回る。

4 正答数度数分布



2 領域別の結果

学習指導要領の領域	国東市	大分県	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	61.1	62.3	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	67.1	58.3	70.4
A 話すこと・書くこと	64.6	64.1	63.9
B 書くこと	66.5	67.0	67.4
C 読むこと	55.5	60.0	59.7

▲ 「話すこと・書くこと」以外は全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観点	国東市	大分県	全国
知識・技能	62.1	63.3	64.2
思考・判断・表現	62.2	63.7	63.7

▲ 「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国・県平均を下回る。

▲ 低学力層の児童の割合（正答率30%以下）が全国・県平均より多い。
▲ 正答数が全国平均以上（9問以上）の児童の割合は全国値を下回る。

令和8年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）②

■ 課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった（無回答率が高かった）問題

大問4 設問二 【平均正答率 国東市 29.9% 大分県33.0% 全国35.2%】
 【無回答率 国東市 20.7% 大分県21.9% 全国19.8%】
 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ 【彷彿】 ① はっきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。② おぼろげなさま。はっきりしないさま。

二 林さんは、一 朝部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の「国語辞典に載っていた意味」を読むと、[6]段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きました。【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、それらの表現のうちどれか一つを[6]段落の中から抜き出したい。

⑥ こんな風に思いつくままの例を見ただけでも、ことばのやりとりの様々な側面に現れる表情を擬音語・擬態語がありありと映し出していることがわかる。たとえば、「彼ははつとりと答えた」と聞けば、その「はつとり」という語から、私たは「彼のその時の声の大きさや調子、言い方、答えるまでの間のとり方、表情などのイメージを心に思い描く、正確には、一つ一つの要素を個別に考えるというより、それら全部を包括的に含んだイメージを得る。そしてそういうイメージは、人と人とのコミュニケーションという観点から見れば、「彼」が実際に何を言ったかということと同じくらい重要な情報なのである。普段人と話す時でも、私たちは相手のことばの文字通りの意味や内容だけを聞くわけではない。どんな声を出しているか、どんな言い方をしているか、せわしない話し方か、それともゆっくり間をおいているか、顔つきはどうか、物腰はどうか、そういった情報のすべてを無意識のうちに集めて、それを手がかりに、本当に相手が何を伝えたいのかを知ろうとする。そして時には、相手の口調や表情によって、言おうと思っていたことを言わないでいたり、まったく逆の方向に話をもっていくりすることもある。自分から何か言う場合も同じで、ことば以外の部分にも、たくさん自分の意図を託している。

指導の改善

【分析】

問題設定

文章中の傍線部「ほうふつとさせる」を理解するために、国語辞典の「ほうふつ」を調べた。「ほうふつ」の意味は①②とある。さらに、同じような内容を表す別の表現を探し書き抜く。

【生徒の回答】

- × 「ありありと」
- 「ありありと映し出している」

【生徒の思考と課題】

意味①「はっきり」の意味の一部分だけを捉えて、「ほうふつとさせる」全体の意味まで把握できず全てを抜き出せていない。
 →言葉全体としてとらえる力の不足。
 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える力の不足。

【指導にあたって】

語彙を豊かにする活動を意識的に取り入れる

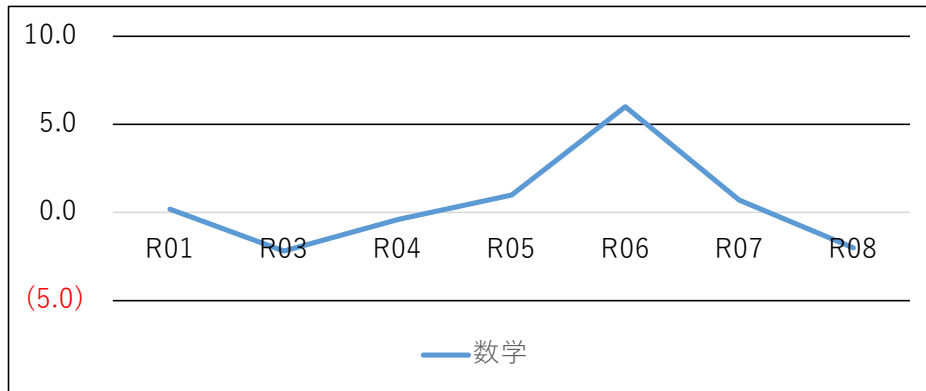
*全国と大きく正答率が開いている

- ①国語辞典の日常的な活用を行う。
 - ・国語辞典の基本構成の確認（小学校での既習事項）
 - ・国語辞典で意味の確認だけでなく、用法や例文、類義語や対義語に注目させ広げる。
- ②文章を読み取る際の指導を「全体構造と内容の把握」「語句の役割や他の語句との関係」など意識して切り口を変えながら行う。
- ③文法事項を含めた言葉の特徴や使い方に関する事項を帯時間に入れる。

令和8年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）①

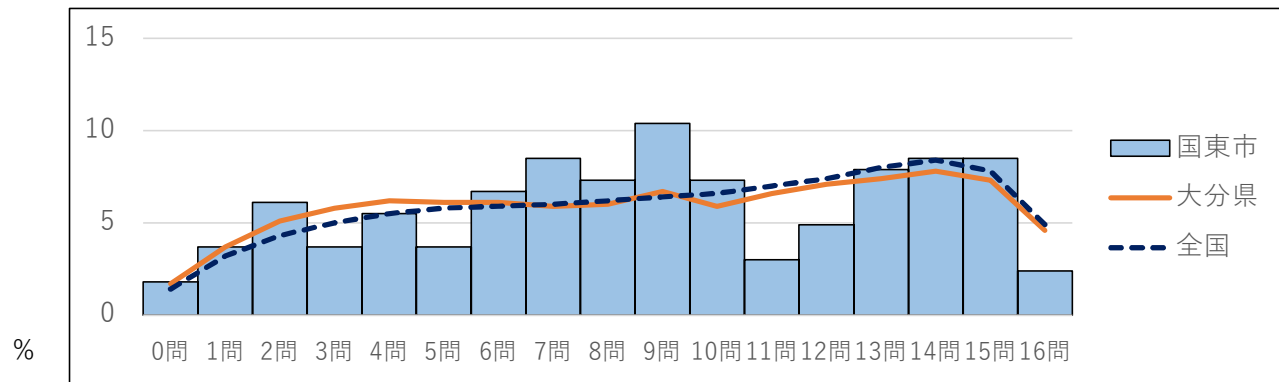
■ 結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



▲ 全国平均を0.6下回る。

4 正答度数分布



2 領域別の結果

学習指導要領の領域	国東市	大分県	全国
A 数と式	66.2	65.4	67.8
B 図形	37.7	43.5	48.7
C 関数	56.1	55.2	54.8
D データの活用	55.9	52.8	53.5

▲ 「数と式」「図形」の領域は全国平均を下回る。特に図形領域に課題が見られる。

3 観点別の結果

観点	国東市	大分県	全国
知識・技能	60.8	61.0	63.0
思考・判断・表現	36.1	36.5	39.1

▲ 「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国・県平均を下回る。

○ 低学力層の生徒の割合（正答率30%以下）が全国平均より少ない。
 ▲ 度数分布から、学力差が広がっていることがうかがえる。

■ 課題が見られた問題と指導の改善

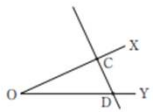
正答率の最も低かった問題

具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見い出すことができるかどうかをみる。

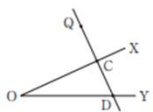
(3) 13 ページの手順で示した作図とは違う方法で、 $\angle XOY$ の2倍の大きさの角を作図する方法を考えます。

方法

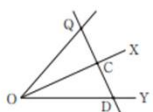
① 辺OX上に適当な点Cをとり、点Cを通る辺OXの垂線をひき、辺OYとの交点をDとする。



② 直線CD上に線分CDと線分CQの長さが等しくなるように、辺OXに対して点Dと反対側に点Qをとる。

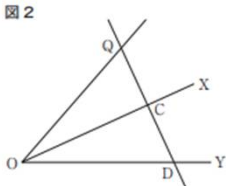


③ 直線OQをひく。



【正答】
I オ II ア
【正答率】
全国 37. 1%
国東市 25. 6%

次の図2は、前ページの方法によって作図したものです。この図2において、 $\angle QOD$ が $\angle XOY$ の2倍の大きさであること、つまり $\angle COD = \angle COQ$ であることの証明を考えます。



そこで、方法の①、②のそれぞれから直接わかることを仮定とし、証明することがらを次のように表します。

図2において、
I、II ならば $\angle COD = \angle COQ$ である。

上の I には、図2において方法の①から直接わかること、II には、図2において方法の②から直接わかることが入ります。I、II のそれぞれに当てはまるものを、下のアからオまでのの中から1つずつ選びなさい。

- ア $CD = CQ$
- イ $OD = OQ$
- ウ $\angle ODC = \angle OQC$
- エ $\angle COD = \angle COQ$
- オ $OX \perp CD$

指導の改善

1. 指導のポイント

- 与えられた条件や示された図から証明する事柄の「仮定」と「結論」を明らかにし、数学的に表現できるようにする。

2. 授業の展開例

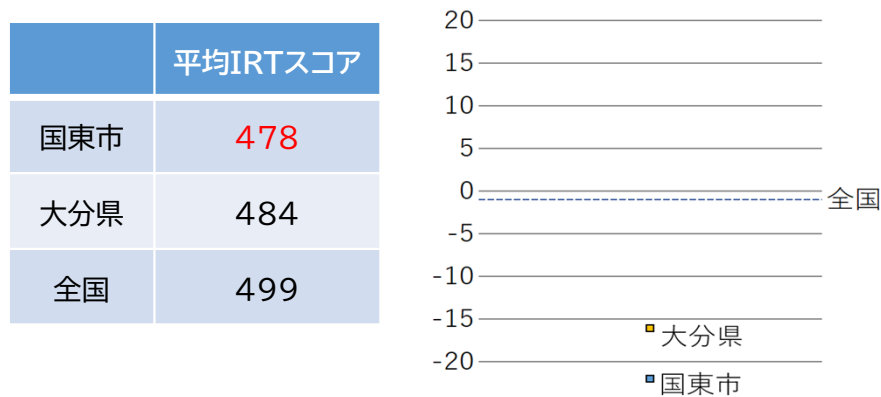
- ①作図によって示したい角 ($\angle COD = \angle COQ$) を結論として見い出す。
- ②操作から直接導かれる条件を数学的記号を用いて表現する。
 - 操作①「垂線をひく」 → 仮定 $OX \perp CD$
 - 操作②「等しい長さの点をとる」 → 仮定 $CD = CQ$

③「 $OX \perp CD$, $CD = CQ$ ならば $\angle COD = \angle COQ$ である」という仮定と結論を明確にした形で整理する。

令和8年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）①

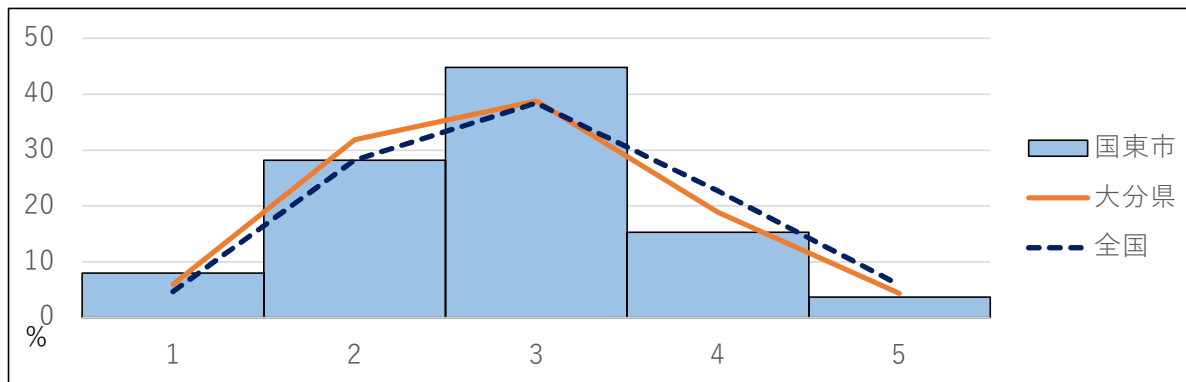
■ 結果のポイント

1 全国平均との差（経年変化：IRTスコア）



▲ 全国平均IRTスコアを22ポイント下回る。

4 IRTバンド分布グラフ



2 領域別の結果（公開問題のみ）

学習指導要領の領域	国東市	大分県	全国
聞くこと	59.1	59.0	62.8
読むこと	56.4	57.5	60.0
書くこと	43.1	39.8	43.1
話すこと	-	-	-

▲ 「聞くこと」「読むこと」の領域は全国平均を下回る。

3 観点別の結果（公開問題のみ）

観点	国東市	大分県	全国
知識・技能	59.5	57.4	59.8
思考・判断・表現	49.9	49.3	52.8

▲ 「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国平均を下回る。

▲ IRTバンド3以上の生徒の割合が全国平均を下回る。
※IRTバンドは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、3が基準である。

令和8年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）②

■ 課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問7【平均正答率 国東市55.6% 大分県67.8% 全国72.4%】▼16.8P *全国との差が最も大きい
【出題の趣旨】日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

英語 7 目的に応じて、必要な情報を読み取る

あなたは、友達の名ナ(Nana)の誕生日パーティーのために料理を作るのを手伝います。主催者のジェーン(Jane)からの【メール】を読み、あなたがジェーンの家に行く時刻を、＜解音欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【メール】

About Nana's Birthday Party	
Date:	April 20
From:	Jane
Hi, friends, This is Jane. Here's some information about Nana's birthday party. Date: Saturday, April 25 Time: The party starts at 11:30 a.m. Please don't arrive before 11:15 a.m., because we will set up for the party. Place: My house If you can help, please read the information below. Please come at 10:00 a.m. to cook for the party. Please come at 10:30 a.m. to prepare the games. I hope Nana will have a good time with everyone. Your best friend, Jane	

(注) below: 下の

〈附註〉

- ☐ 1 10:00 a.m.
☐ 2 10:30 a.m.
☐ 3 11:15 a.m.
☐ 4 11:30 a.m.

回答 類型	正答	国東 市	大分 県	全国
1	◎	55.6	67.8	72.4
2		25.9	10.0	7.8
3		11.1	15.3	13.0
4		7.4	6.9	6.7

正答率は55.6%である。誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する本問では、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができている。誤答の中では解答類型2の反応率が25.9%と高い。“Please come at 10:30 a.m. to prepare the games.”の文の意味が理解できていなかったり、“If you can help, please read the information below. Please come at 10:00 a.m. to cook for the party.”を読み飛ばしてしまったりしている可能性が考えられる。また、問題文にある「料理をするのを手伝います。」という重要な文言を意識できていない可能性もある。

指導の改善

1. コミュニケーションを行う目的を明確にし、どのような情報を読み取らなくてはならないかを把握させる

目的に応じて、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取る言語活動を行うに当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にし、どのような情報を読み取らなければならないかを把握させることが重要である。書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、複数の情報から、自分にとって必要な情報とそうでない情報を区別して読み取る必要がある。

言語活動を行うに当たっては、日常的话题に関して、実際に英語が話される状況に近い場面を設定するなど、生徒自身がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、情報を得たいと考えるようなものを教材とするなどの工夫をすることも大切である。

2. 自分にとって必要な情報に関連する語句や表現に着目して読ませる

自分にとって必要な情報は何か、何を読み取らなければならないかを明確にした上で、必要な情報に関連する語句や表現に着目して読むように指導することが大切である。

英語7においては、誕生日パーティーで料理をするのを手伝うために情報を得るというコミュニケーションを行う目的に応じて、“If you can help, …” “cook …” “Please come at …”といった語句や表現に着目させ、文章を読んで必要な情報を読み取るように指導することが考えられる。

関連する語句や表現については、ペアやグループ、学級全体で共有し、その後、関連する表現に着目して文章を読み、必要な情報とそうでない情報を判断しながら読むことができるように指導することも考えられる。

《言語活動の例》

- 広告や予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動
- 取扱説明書から必要としている説明を読み取る活動
- スポーツクラブの複数のパンフレットを読み、自分が通うことのできる曜日に自分が体験したいスポーツを実施しているクラブはどれなのかを探す活動

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について



国東市教育委員会
学校教育課

令和8年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要

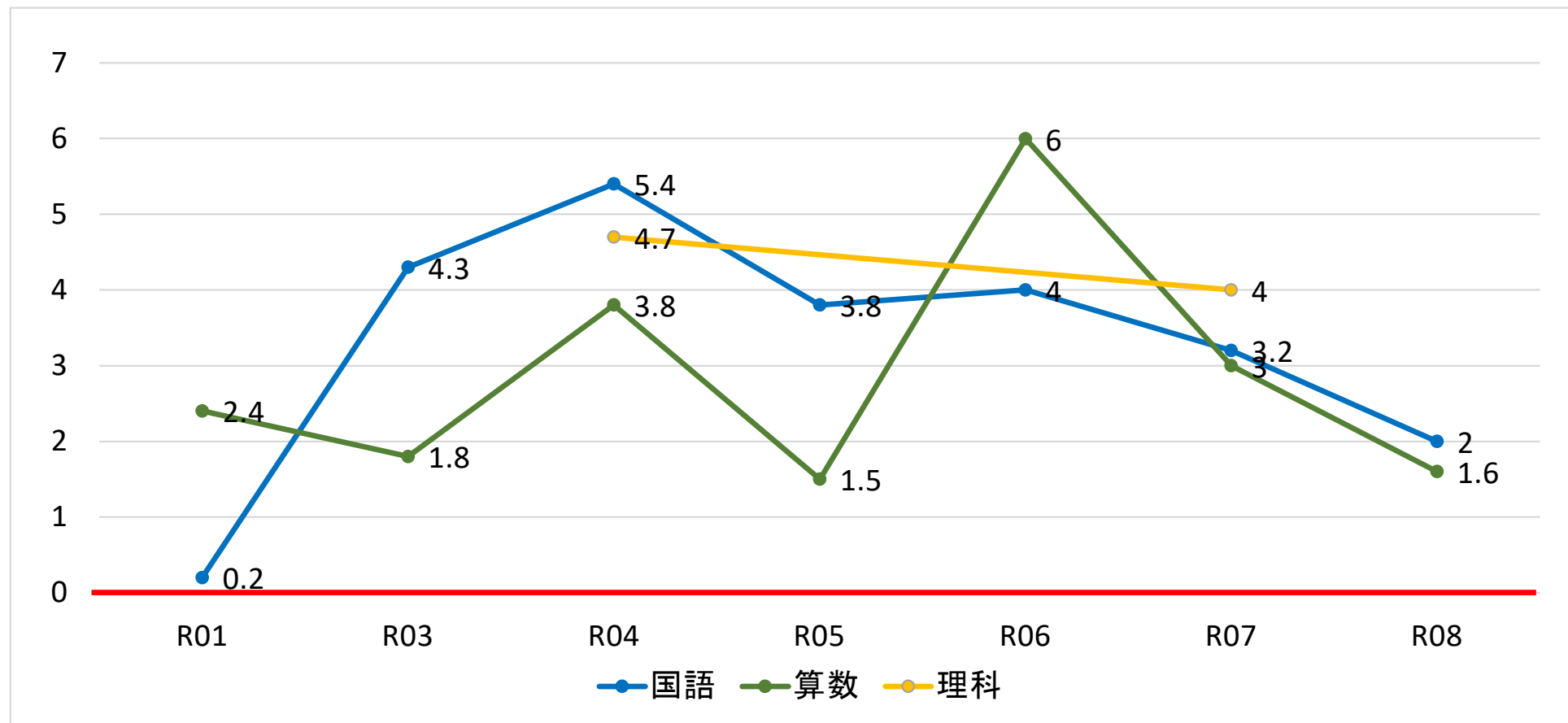
正答率(%)

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国	60.9	56.4	63.9	57.0	499
大分県	63	58	64	55	484
国東市	65	58	62	55	478
全国との差	+4.1	+1.6	-1.9	-2	-21
大分県との差	+2	0	-2	0	-6

 は全国平均を上回った教科

※(中)英語はIRTスコア

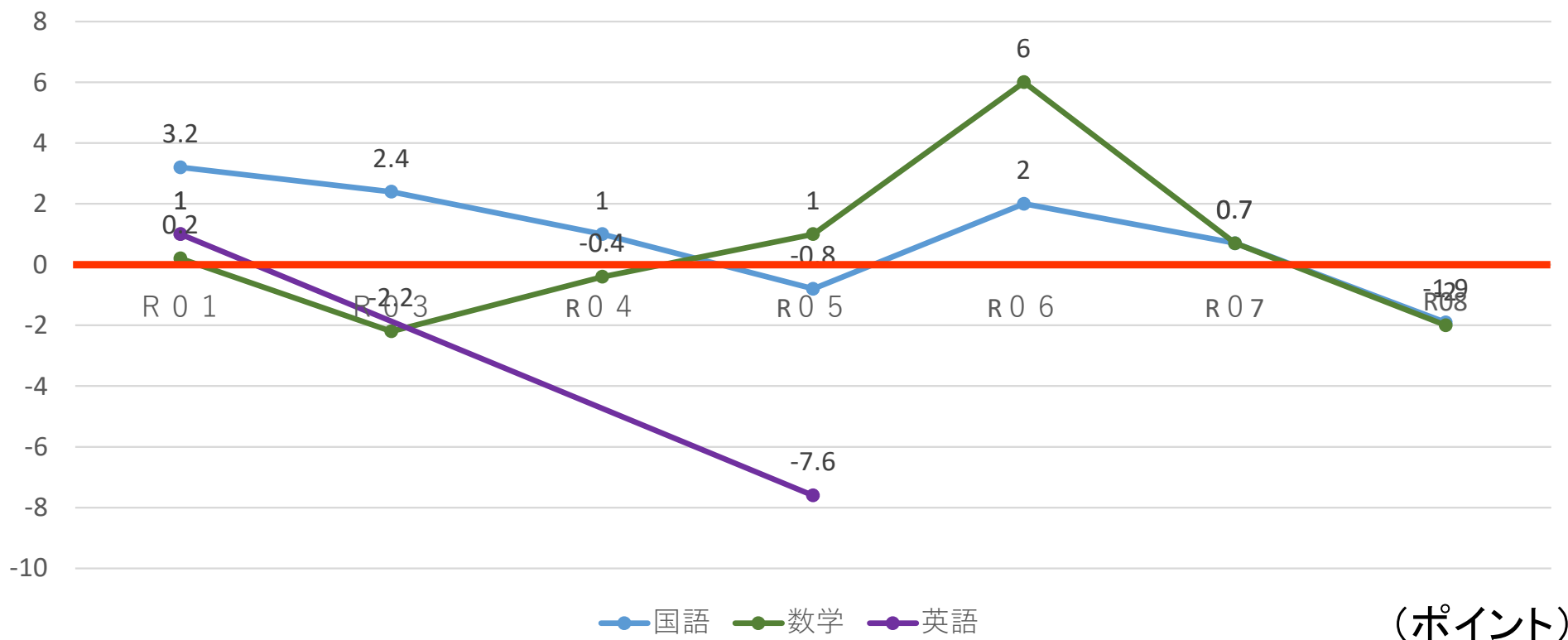
(小学校)国東市と全国との正答率の差の推移



(ポイント)

	R01	R03	R04	R05	R06	R07	R08
国語	0.2	4.3	5.4	3.8	4	3.2	2
算数	2.4	1.8	3.8	1.5	6	3	1.6
理科			4.7			4	

(中学校)国東市と全国との正答率の差の推移



※R6以降、英語理科はIRTスコアとなったためグラフには表示していない

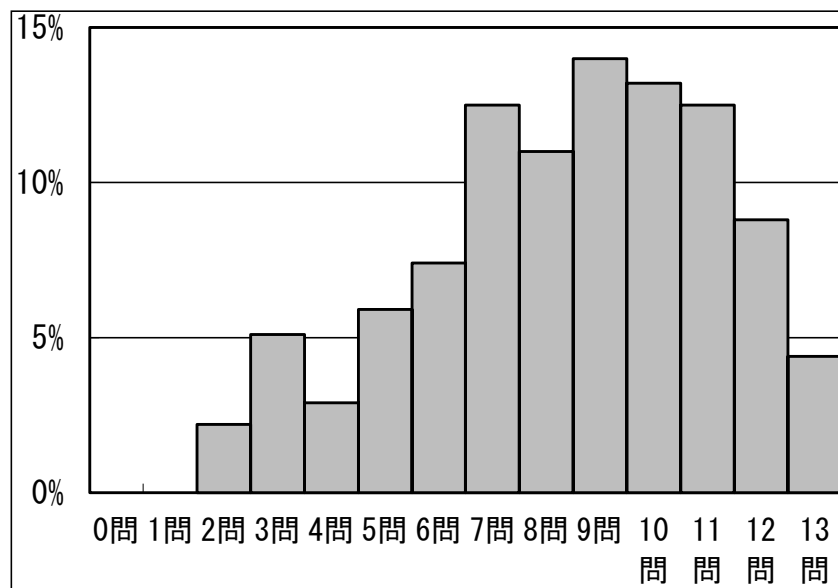
(小学校)正答率が3割以下の児童の割合

(%)

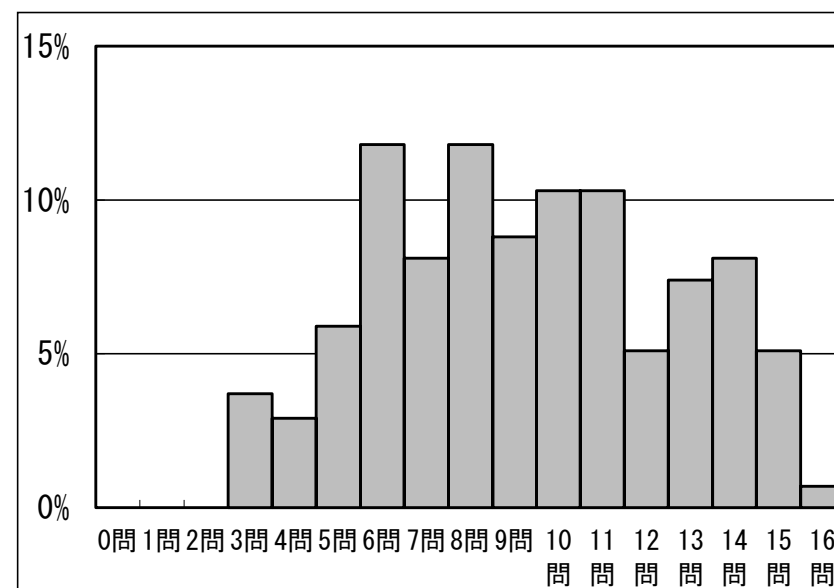
小学校	国東市	大分県	全国
国語	7.3(3.1)	7.1(5.6)	8.7(7.7)
算数	6.6(12.2)	12.2(17.7)	15.4(20.1)

※()内はR7年度の値

国語



算数

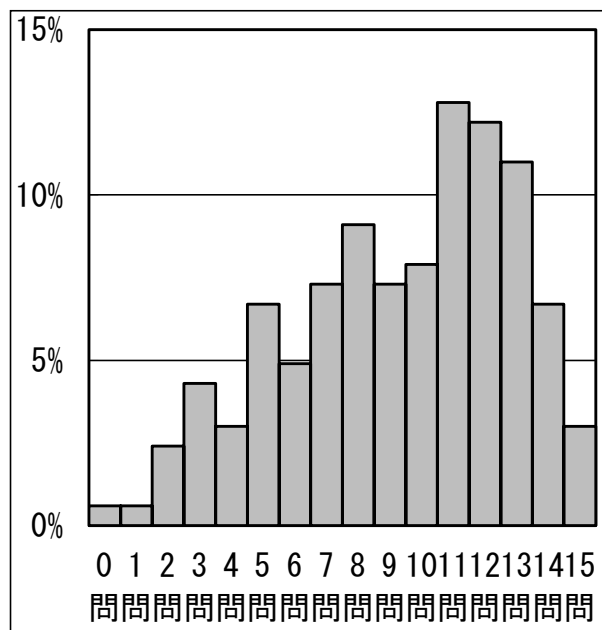


(中学校)正答率が3割以下の生徒の割合

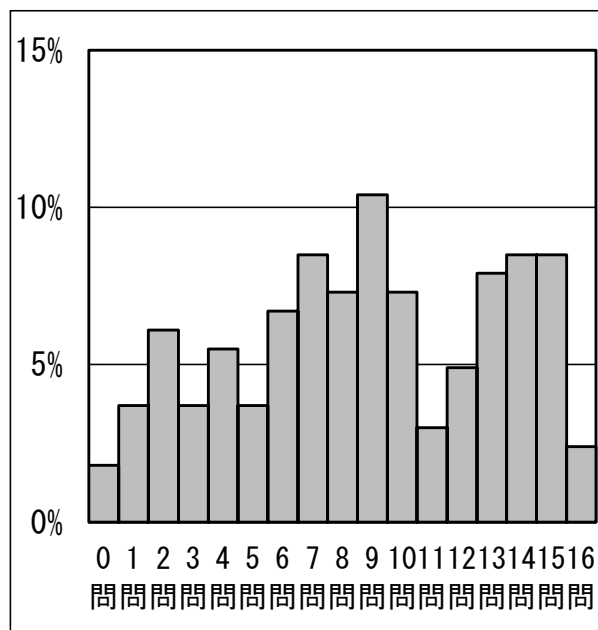
中学校	国東市	大分県	全国	(%)
国語	10.9(15.3)	9.2(15.7)	8.6(14)	
数学	20.8(37.5)	22.5(44.5)	19.4(39.6)	
英語	36.2	37.9	32.9	

※英語はIRTバンド1・2の割合の合計 ()内はR7年度の値

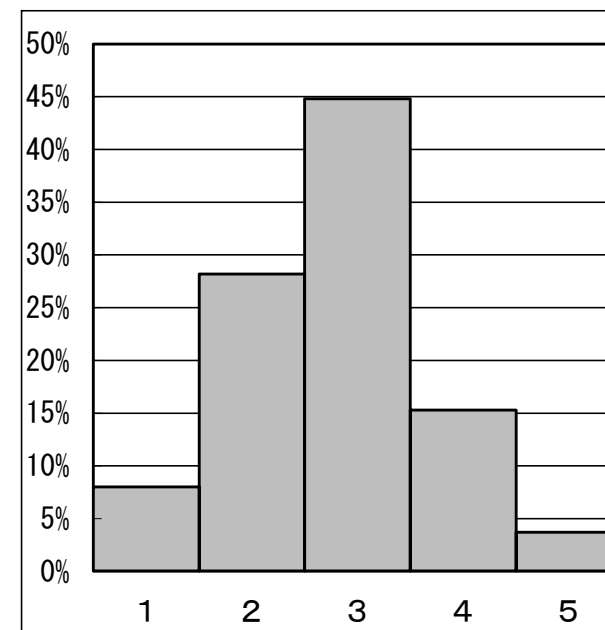
国語



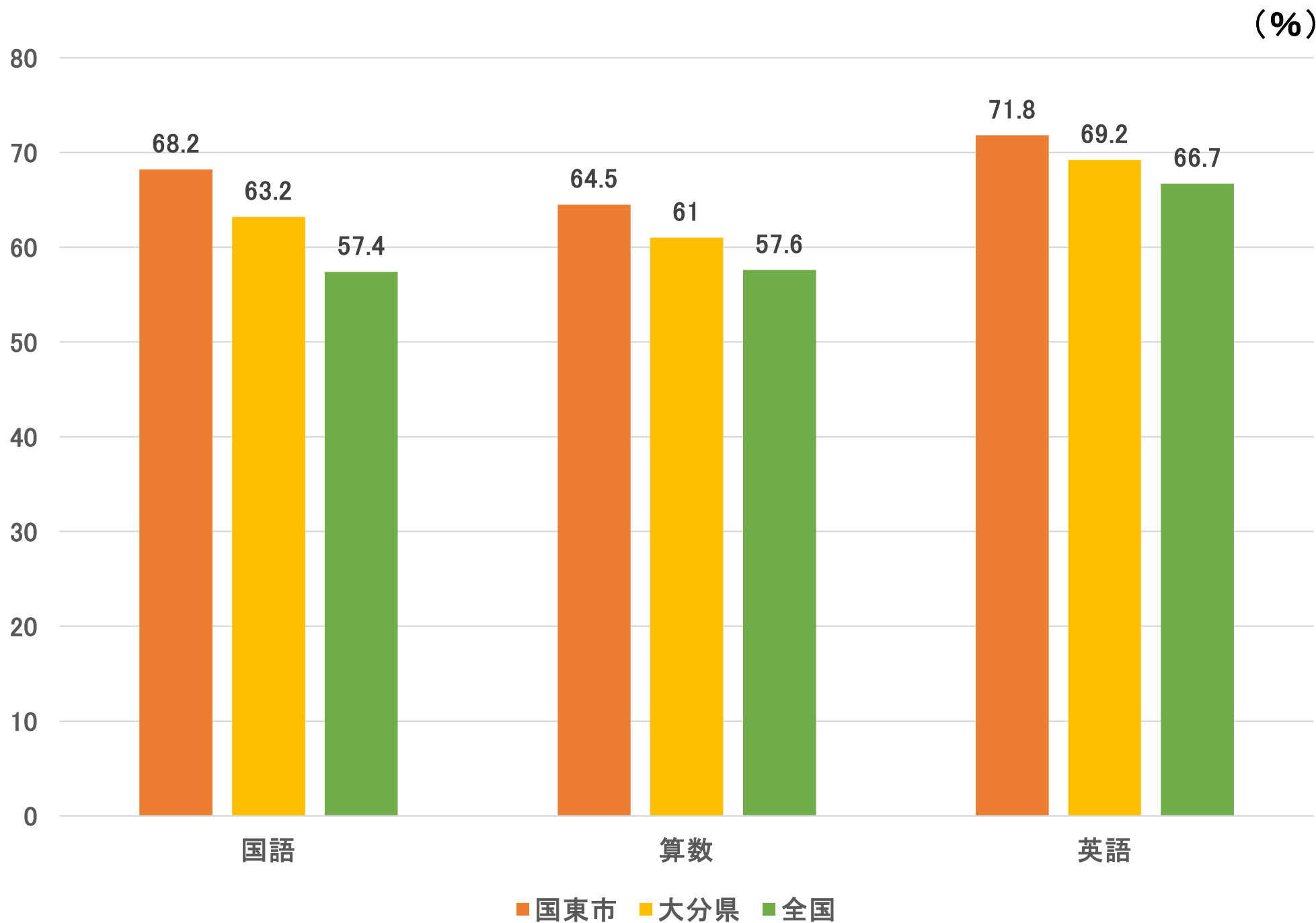
数学



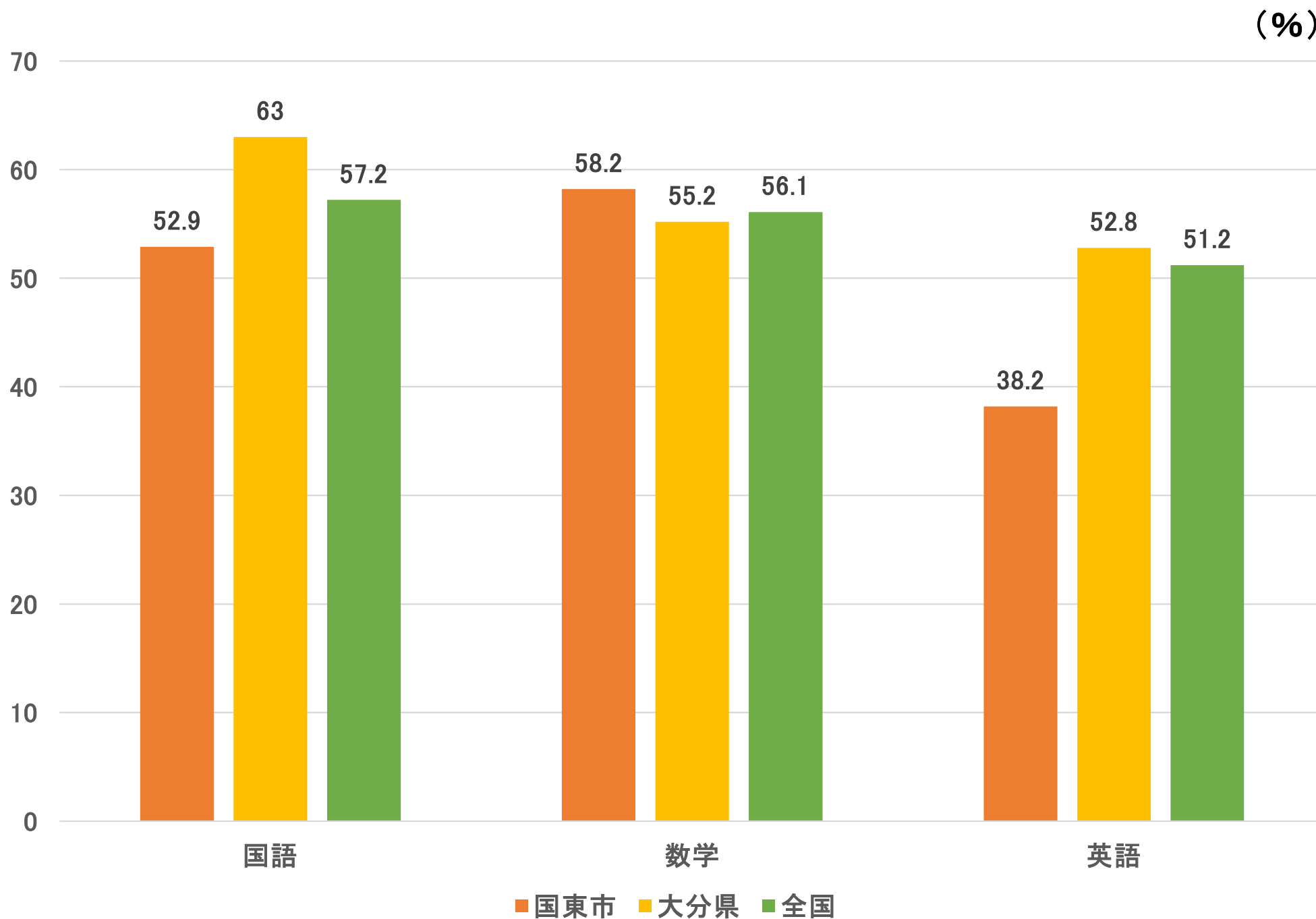
英語



(小学校)「教科等の勉強が好きですか」に対する肯定的な回答の割合



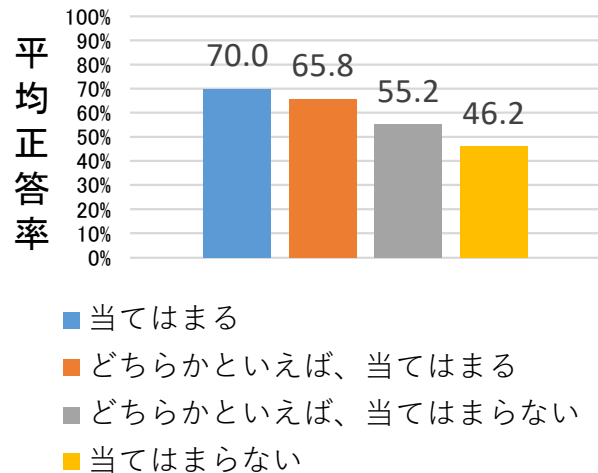
(中学校)「教科等の勉強が好きですか」に対する肯定的な回答の割合



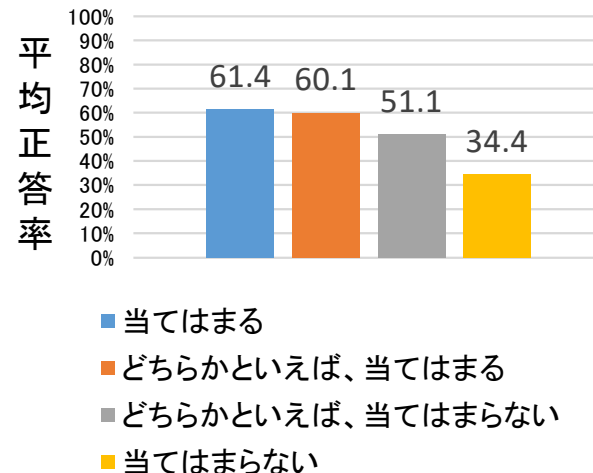
正答率×「学習意欲・主体性」のクロス分析①

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

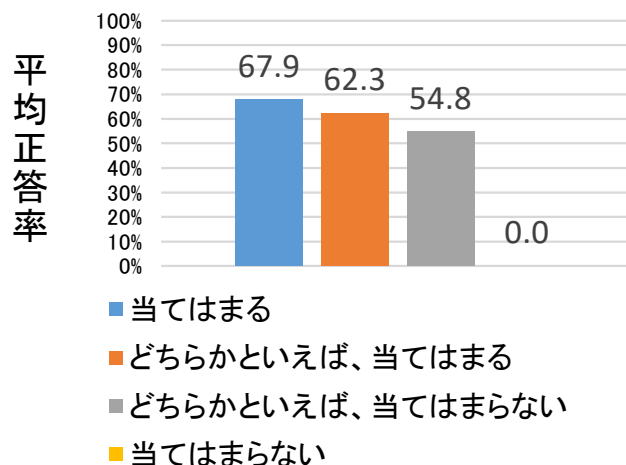
小学校 国語



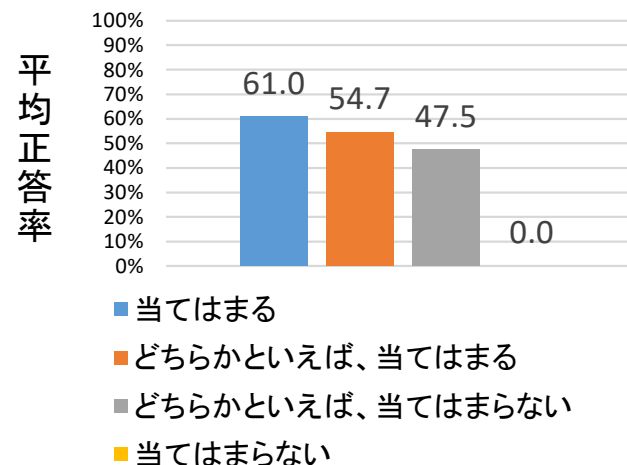
小学校 算数



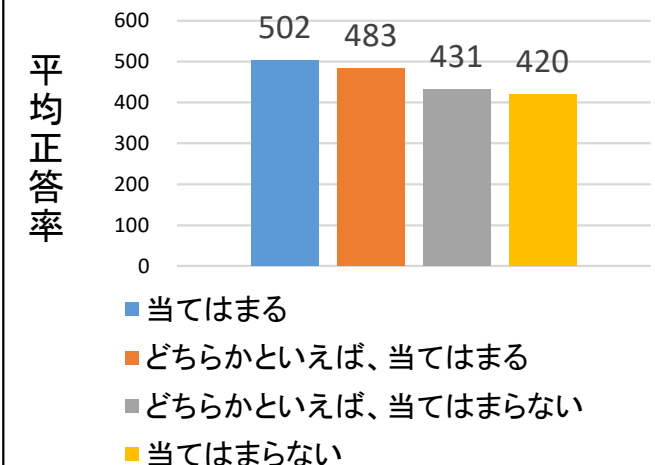
中学校 国語



中学校 数学



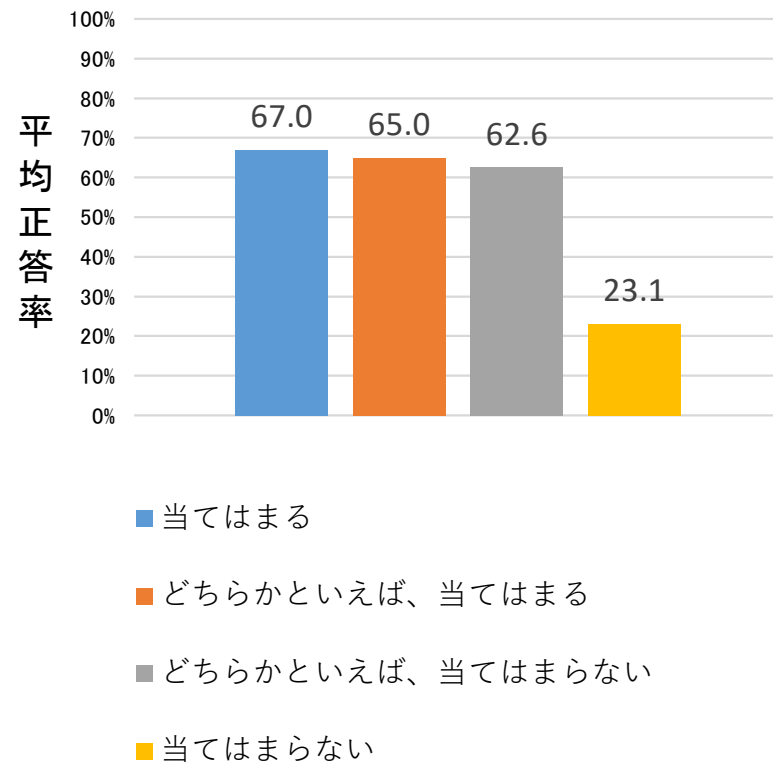
中学校 英語



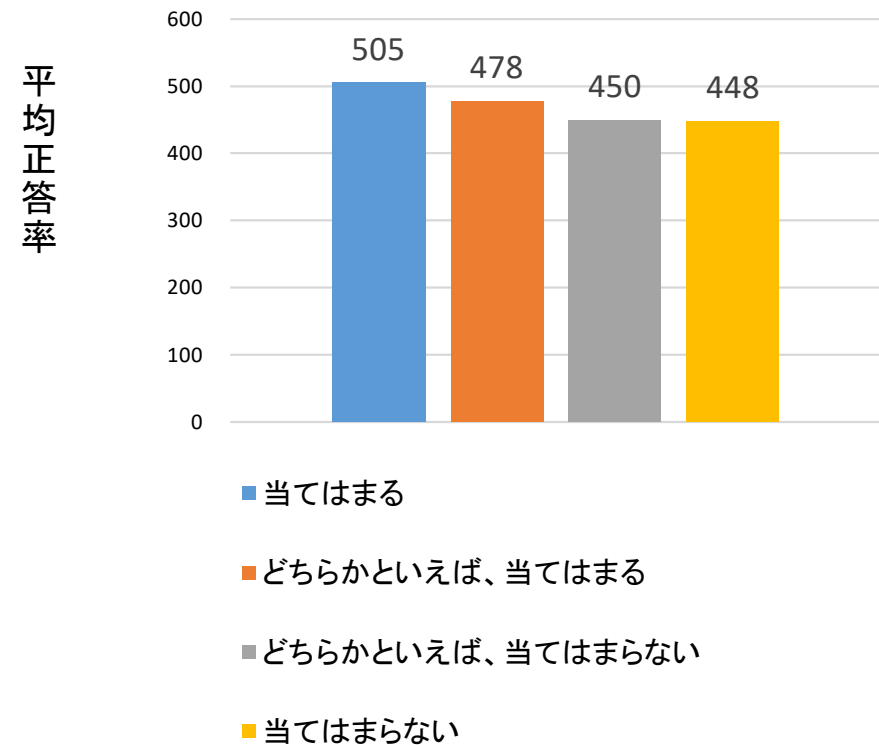
正答率×「学習意欲・主体性」のクロス分析②

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、
次の学習につなげることができていますか

小学校 国語



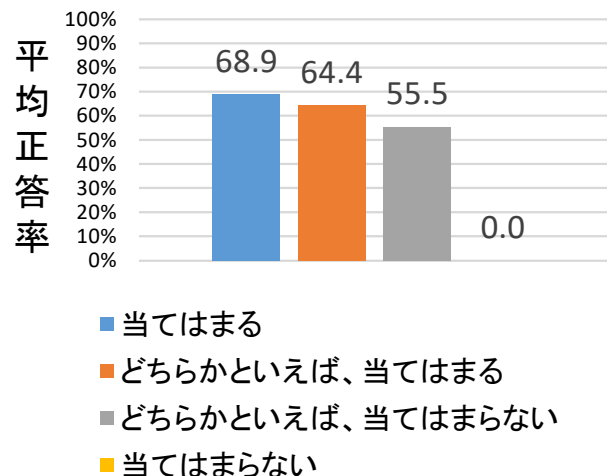
中学校 英語



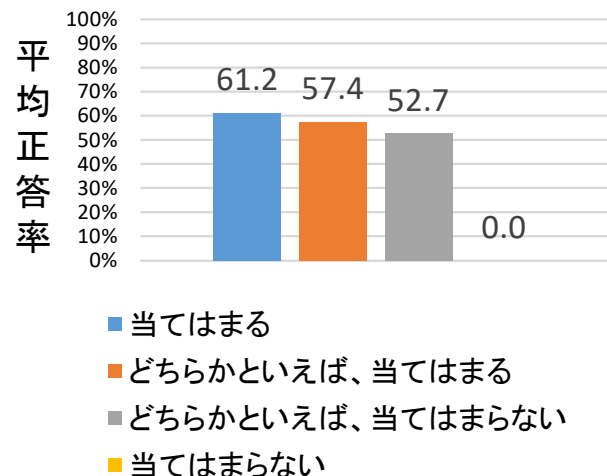
正答率×「学習意欲・主体性」のクロス分析③

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

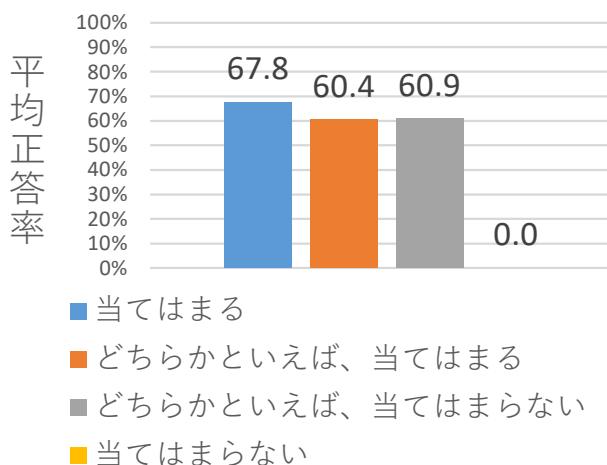
小学校 国語



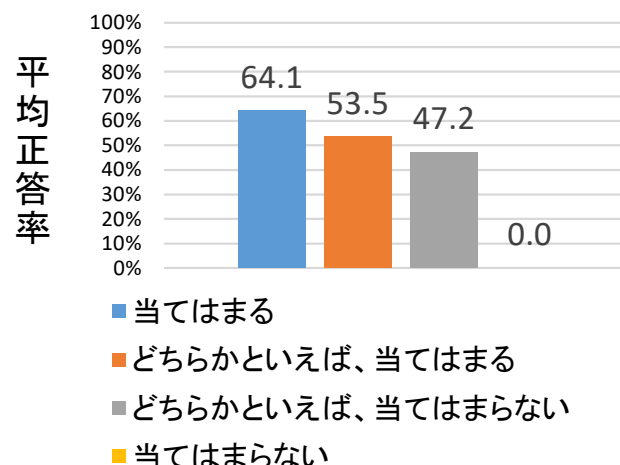
小学校 算数



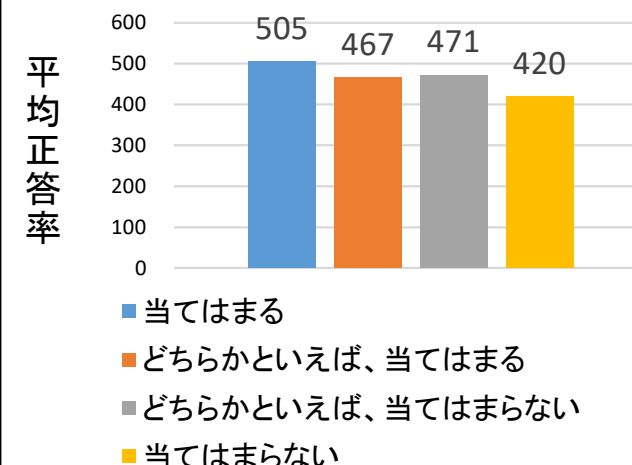
中学校 国語



中学校 数学

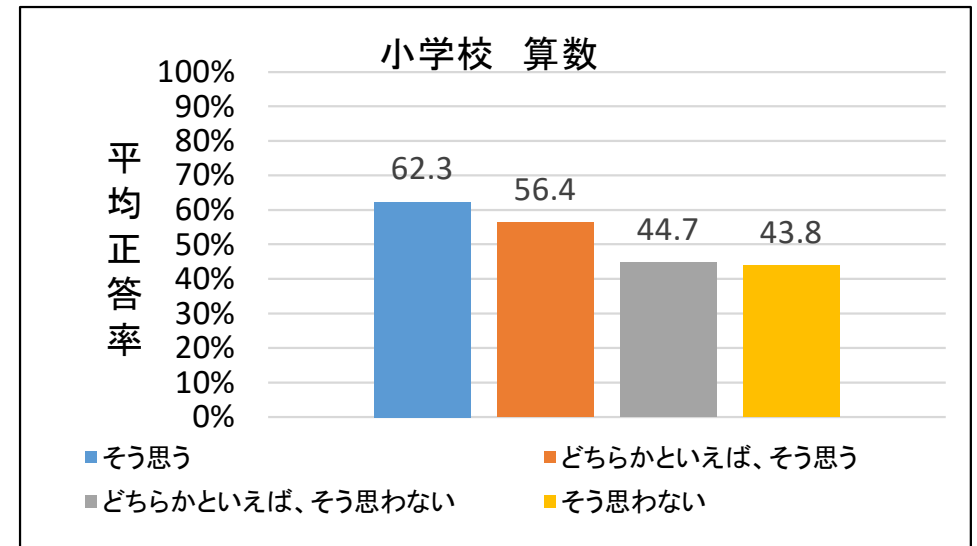
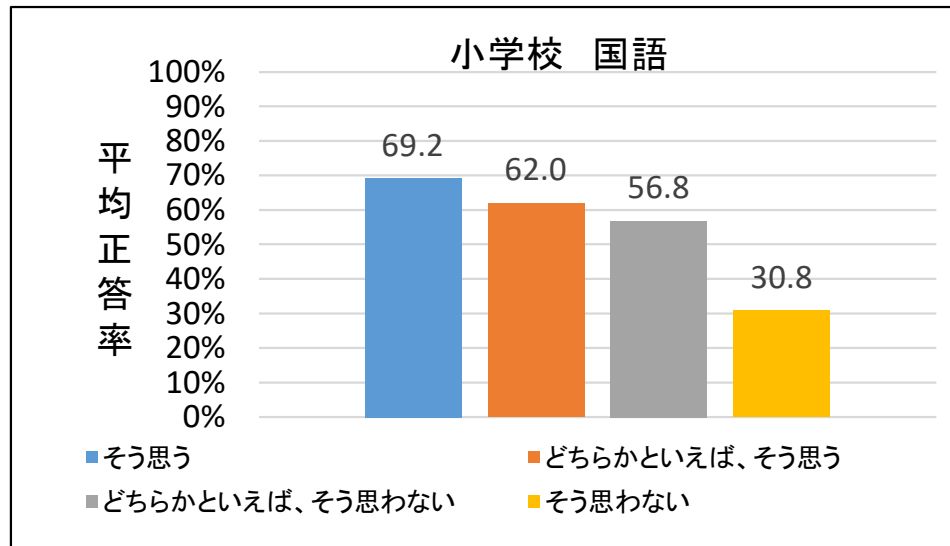


中学校 英語

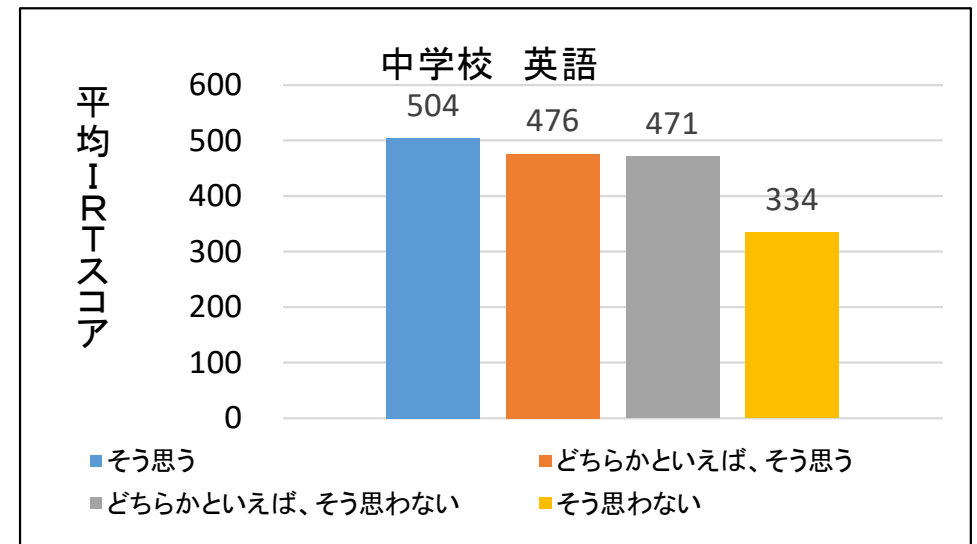
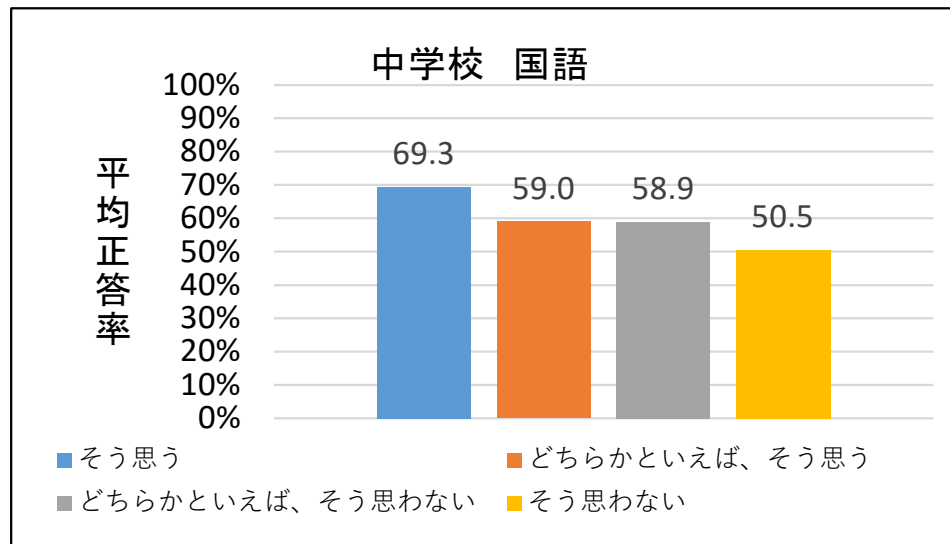


正答率×「ICT活用」のクロス分析

(小学校)あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか



(中学校)あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか



全国学力・学習状況調査の結果から

① 各教科の正答率の状況

- ・ 小学校はすべての教科で全国の平均正答率を上回っている。
 - ・ 中学校はすべての教科で全国の平均正答率を下回っている。（英語はIRTスコア）
 - ・ 昨年度と比較すると、すべての教科で全国の平均正答率との差は小さくなっている。
- 組織的な授業改善の成果は着実に表れている。継続して取り組んでいくことが重要である。
 - 昨年度の国東市学力調査との比較において成果が見られている。調査結果の分析に加え、改善のための取組を丁寧に進めることが伺える。

② 正答率 3 割未満の児童・生徒の割合

- ・ 小・中学校ともにほとんどの教科で、全国の出現率より高い傾向にある。
 - ・ 昨年度と比較すると、出現率が減少している教科が多い。
- 授業改善の重点Point 5 「評価規準に達しない（達しそうにない）児童生徒に対する個別の指導」を意識した授業改善が進んでいると捉えられる。
 - しかし、全国調査においては、県または全国より高い傾向にあるので、より一層推進していく必要がある。

全国学力・学習状況調査の結果から

③ 各教科の愛好度

- ・ 小学校はすべての教科で県・全国の値を上回っている。
- ・ 中学校では、数学が県・全国の値を上回っている。特に英語の愛好度が低い。
- 「わかった・できた」が実感できる「楽しくて力の付く授業」づくりに取り組む。
- 「わかる」から「好き」へつながる「主体的・対話的な授業」をめざす。
 - ・ 「楽しくて力の付く授業づくり」（新大分スタンダードR8改訂版）
 - ・ 国東市授業改善の取組の重点＋Point A「子どもの思いや考えが聞こえる振り返り」

④ ICTの活用

- ・ 正答率との相関関係は、「ICTを自信をもって使うことができる」「ICTを学びに活用している」等の項目に強く見られている。
- 引き続き、ICTの積極的な活用を進めるとともに、「何のためにICTを使うか」「どのような場面で使うか」「どのように使うか」などの視点から、効果的な活用のあり方を考えていく。